

# よこはまユースレター

発行/公益財団法人よこはまユース  
 tel.045-662-3716 fax.045-662-7645  
 URL <http://yokohama-youth.jp/>  
 Eメール [soumu@yokohama-youth.jp](mailto:soumu@yokohama-youth.jp)

Pick Up!

## 体験が力になる

～青少年期の体験は、「生きる力」を育む～

この夏、皆さんはどんな体験をしましたか？  
 よこはまユースの調査では、青少年期の豊かな社会体験は、成人後の社会性と少なからず関連があるという結果が出ています。

本号では「体験活動」の実施と調査を通じて私たちが把握したことをレポートします。

※写真と本文は関係がありません

### ■おいしいおにぎり

先日、小中学生が通う小さな居場所（寄り添い型生活支援事業）で、近くの公園へ遠足に行ってきました。

朝、居場所に集まり、お弁当は各自で好きなように作ることにしました。子どもたちは炊飯器から食べられるだけのご飯を取り、小学生は中学生に手伝ってもらいながら、好きな具を選んで思い思いの味やかたちのおにぎりを作り、リュックに入れて公園に向かいました。「おにぎりを自分で握る」ことは、ほとんどの子が初めての体験だったようです。

公園で楽しく遊んだ後、自分が作ったおにぎりを自慢し合いながら、誰一人残さず食べていました。

### ■体験の力

何気ない場面ですが、このような小さな体験の積み重ねは、子どもの成長にどのように作用するのでしょうか。



「体験活動」にはさまざまな分類があります。例えば、年代ごとでは、幼少期の自然体験、学童期の生活体験、思春期以降の社会体験が大切な例としてあげられます。

遠足の例で紹介した体験は、おにぎりを握るという「生活体験（調理体験）」、皆で助け合いながら作るという「社会体験（協力体験）」、公園で遊ぶという「自然体験」が合わさったものとなります。

よこはまユースでは、2017年に「青少年期の社会体験活動」に焦点を当て、青少年期に経験した社会体験が、その後、どの程度“力”として身についたかを調査しました。それによると「①青少年期に社会体験が豊富な人ほどコミュニケーション能力や、諦めずにやり抜く力が高い」「②青少年期に地域の大人や異年齢の子どもと関わる機会が多かった人ほど、自尊感情や共感性・社会への関心度が高い」「③青少年期に子ども会などの活動に参加していた人ほど社会参加に積極的な傾向がある」「④若い世代では体験活動の機会が全般的に減っている」という傾向が明らかになりました。



### ■「本物の体験と共有」の必要性

昨今、生活は便利になり、コンビニに行けば24時間おにぎりを買うことはできますし、厳しい自然環境でさえ、入場料を払えばバーチャル体験が手軽にできます。ましてや、人と一切関わらなくてもスマートフォンひとつで欲しい商品を手に入れることができてしまいます。

しかし、遠足のあの日、自分で初めて作ったおいしいおにぎりの味は、楽しかった体験とセットで子どもたちの記憶に刻み込まれているはずです。

私たち大人は、青少年に何を残していけるのでしょうか。商品化されていない「本物の体験と共有の機会の大切さ」を伝えていきたいですね。

笑って!楽しんで!  
 青少年育成

青少年育成寄附金募集事業

## 第59回 爆笑! 濱っ子寄席

日時: 2019年12月4日(水) 18時~21時  
 会場: 関内ホール大ホール ※全席指定  
 出演: 三遊亭圓歌、柳家権太楼、柳亭市馬、  
 林家正蔵、立花家橘之助、  
 柳家権之助 ※以上予定

チケット: S席 3,500円 / A席 2,500円  
 B席 1,000円

【お問合せ・ご予約】045-662-3716

★ツイッター@yokohamayouth

※詳細はHPをご覧ください

三遊亭歌之介 改メ  
 四代目三遊亭圓歌  
 襲名披露口上を予定!

◆チケット予約◆  
 10月21日(月)9:00~



### 【報告】さくらリビング「マチピカ」隊

#### 『ハマロード・サポーター』

感謝状をいただきました!

安全で快適な道路を目指し、美化や清掃などを地域のボランティア団体と行政が協働して行うハマロードサポーター。

8月23日(金)に全体交流会が行われ、青少年が野毛周辺の街角を清掃するボランティア活動「マチピカ」隊が、横浜市長から感謝状をいただきました。



代表して、青少年委員の川上莉央さんが賞状を受け取りました

青少年交流・活動支援スペース さくらリビング

地域交流事業

「さく Livi POTATO FARM」(3~8月)

青少年が「地域の大人と共に活動すること」「自然に触れる機会を持つこと」を目的に、3月から中山駅近くの畑を借りてじゃがいもの無農薬栽培に取り組んでいます。

種イモの「芽出し」や腐敗を防ぐために切り口に灰を付ける「種植え」の方法、「芽かき」や水はけをよくするための土壌づくりなどを一から教えてもらいながらのチャレンジです。簡単そうに見えた畑を使っての作業は、想像をはるかに超えた力仕事で、少し土かけをただけで汗が噴き出ます。しかし終わった後は気分爽快!「大人と農業の話が出来て楽しかった」「横浜にもあんなに心地よい場所があったなんて!」と、参加の青少年たちは五感を使った体験ができました。(実施協力:村田理正さん)



放課後キッズクラブ

いま話題の「あの施設」へ行ってきました…!

(7月1日/折本小学校放課後キッズクラブ)

眉をひそめる方もいらっしゃると思いますが、子どもが大好きな言葉「うんこ」。横浜中央郵便局をリノベーションし、期間限定で開催されている「うんこミュージアム」へ行ってきました。

入場まで30分かかる人気ぶりで、7つの色の洋式便器で踏ん張ってみたり大声で「うんこ」と叫んだり、記念撮影をしたりと、子どもたちは思う存分楽しんでいました。TVでは、子どもがなぜこの言葉を好きなのか



について「自分の体内から出てきたものなので、自分の子どもだと思っているから」と言っていました。

大人に注意されることなく、どっぷりと「うんこの世界」を堪能できたことに大満足だったようです。

※気分を害された皆さま、大変失礼いたしました…

横浜市野島青少年研修センター

「のじまチャレンジキャンプ」(5月18~19日)

キャンプのテーマは「何でもチャレンジ!」です。

いかだ作りでは、1畳ほどの発砲ウレタンを板で挟みロープで結びましたが、紐を結ぶ経験の少ない子どもにとっては最初の難関でした。できあがったいかだで目指すは八景島! (行く気満々でしたが30m程のロープで結んであるためたどり着けず)。



天体望遠鏡を使った夜の星空観察、朝食のカートンドッグづくりに続き、「干潟の生き物観察」ではカニや魚を捕まえるなど、たくさんのチャレンジをした2日間でした。

開始時はよそよそしい雰囲気だった子どもたちも、体験を重ねる中ですっかり仲よくなり、帰り際には少し遅くなった顔つきで、迎えの保護者にキャンプでの体験を誇らしげに話す様子が見られました。

横浜市青少年育成センター

研修報告

「発達障害の子ども・青少年の理解と支援」(7月11日)

青少年の現状や課題を理解し丁寧に寄り添っていくために「発達障がいの子どもの理解と支援」のための研修を実施しました。

講師の中村一樹先生(横浜市立若葉台特別支援学校特別支援教育コーディネーター)からの「本人を変えようとか、何かできるようにしてあげようと考えず、彼ら自身が行動できるように彼らを取り巻く環境を整備していくことが大切です」という言葉が印象的でした。障がいの有無に関係なく青少年支援のすべてに共通する考えだと思えます。



今後も日々の活動のブラッシュアップに育成センターの研修・講座にご期待ください!

Thank you for your support.

ありがとうございました!

2019年2月1日から7月31日までの寄附金

- ◆ユース賛助会費 108件 544,000円
- ◆一般寄附金 30件 114,749円

寄附金協力者(順不同、敬称略)

【団体】

旭区子ども会育成連絡協議会/泉区青少年指導員協議会/横浜市立井土ヶ谷小学校PTA/横浜市立綱島小学校PTA/社会福祉法人横浜共生会 菓子工業組合横浜中央支部/神奈川区青少年指導員協議会/金港交通(株)/京浜サービス(株)/コロ・アンダンテ/JX-ENEOS 野球OB会事務局 柴町内会/(株)杉浦商事/第一カーボン株式会社/西区子ども会育成連絡協議会/西区ジュニアリーダーズクラブ/日本作法会/野島町内会 馬車道商店街協同組合/日之出(株)/ブックオフオンライン/三ツ境幼稚園/(株)横浜アーチスト/横浜市健民少年団/横浜市子ども会連絡協議会 (株)横浜スタジアム/横浜木曜会/横浜野球連盟/(株)横浜レンタル/(公財)横浜YMCA

【個人】

青山 幸一/芦立 正子/荒井 清/荒井 総平/池田 ふみ子/石塚 昇/板垣 憲明/市原 政喜/入江 ゆきよ/岩倉 憲男/岩澤 幹夫/岩田 聡 内野 貴彦/榎本 文夫/大石 俊雄/大久保 皓司/大槻 恵津子/大向 哲夫/沖津 淑子/恩田 幸一/笠原 光子/梶谷 剛朗/片岡 喜久江 勝亦 昭次/金子 剛士/川本 正秀/橋川 和夫/工藤 春治/久保田 惺/雲井 耀一/酒井 勝己/佐藤 雅亮/澤出 吉秀/篠崎 浩子/清水 桂子 鈴木 千代江/須藤 健三/武 久美子/田上 恭孝/俵 節子/戸山 忠明/中村 輝次/中谷 忠宏/中山 里美/成田 拓夫/沼田 幸子/野並 直文 野村 啓子/橋本 康正/濱倉 公子/早川 雅子/美藤 愛/日比野 政芳/古澤 竜夫/松井 孝子/松田 利恵/松本 小寿恵/眞鍋 明文 光田 清隆/三橋 ツネ/安田 修二/安田 由美子/山本 亜紀子/吉田 洋市

元号「令和」。「令和」は、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められているという。考案者とされた先生は、「元号は世俗の人間が決めるようなものではなく、天の声で決まるもの。考案者なんていない」と、おっしゃった。名言である。(畔)